



平成28年7月1日

## 『地域の課題を地域で解決するために』～サテライトの具現化を目指して～

伊那養護学校 伊藤 潤

インターネット上にこんな見出しが躍っている。

「発達障害者「配慮を」＝避難所入れず物資困窮一家族ら、無理解を痛感・熊本地震」  
～今回の熊本地震では、自閉症など発達障害を持つ子供やその家族の多くが、トラブルを恐れて避難所に入れず、車や自宅での生活を強いられていると聞く。「地震におびえ落ち着きをなくした子どもを見ると、周囲への迷惑が不安で避難所に行けなかった。避難できず、じっと我慢していた」…。避難所でパンフレットを見せて説明しても取り合ってもらえず、「普段以上に理解のなさを痛感した」と…～

東日本大震災で同様の問題が多発したため、厚生労働省などは必要な対応をパンフレットにまとめたが、教訓が生かされたとは言い難い状態である。どこでも、いつ何が起こるかわからない状況下にあって、「普段以上に理解のなさを痛感した」は、『共生社会』（これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会）を目指す教育に携わる者にとって改めて大きな課題を突き付けられた感がある。上伊那圏域ではどうだろう…。

この4月1日に施行された法律は、差別禁止法でなく、差別解消法である。それは、地域社会で障害者理解が進み、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会に歩み寄ることを求めている「解消」なのだろう。まさに、上記のような課題解消を目指しての施行である。ここで強調されるべきは「障がいはあっても、環境からの制約を限りなく無くすように周囲は状況づくりをすべきである」との考え方ではないでしょうか。教育においても、「養護・訓練」として「本人のスキル改善モデル」を進めた特殊教育の時代から、今の子ども達が有する障がいに立ち向かう姿勢を示すことを盛り込んだ「自立活動」を進める「集団・地域社会変容モデル」に傾斜した特別支援教育へ、その指導方向も大きく変容している。この流れに沿って、上伊那圏域全体で目指すのは「障がいはあっても、環境からの制約を限りなく無くすような状況づくり（支援体制）」であるべきです。そのため、昨年度、さまざまなニーズに応じられる、ワンストップの地域支援体制づくりとして「上伊那圏域特別支援教育連携協議会」の設立となったのです。この地域に副学籍が定着しつつあるように最終的に目指すのは「地域の子は地域で育てる（支援する）」です。それは単に連携協議会の設立だけでは達成できません。より地域化した支援力を高めるため、子ども一人一人の地域・現場により身近なセンター機能として、サテライト構想を進めたいと思います。

サテライト構想とは、できれば中学校区ごとにサテライトを形成し、連携協議会事務局とつなぐサテライトセンター校が中核となってサテライト地区ごとの支援体制が構築されていて、上伊那圏域全体で連携が取れている状態を目指すことです。「合理的配慮」という言葉が示すように、支援する側も無理なく、既存の状態にプラス(増やす)するのではなく、既存の状態から機能的・効率的な状態に置き換え、変更調整した支援体制を整えなければならぬと考えます。

目指したいのは『子ども一人ひとりにより身近で、より機能的・効率的な支援体制』の構築です。

# 高等学校における特別支援教育

箕輪進修高校 特別支援教育コーディネーター

北原 恵美

日頃から本校の特別支援教育にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

箕輪進修高校は、高校に特別支援教育が導入された平成20年度に多部制・単位制高校としてスタートを切り9年が経過しました。

再編当時は、多部制であること、単位制であることに加え、想定以上の教育的ニーズのある生徒の実態に対して、それまで高校には求められなかった多様な対応に追われました。

中学校特別支援学級担当の先生方や、中間教室の先生方には、「自分に合ったペースで、少人数での学習が可能となる環境が高校に整えられる」ことへの大きな期待があったかと思いません。高校教職員のほとんどに特別支援の経験がないため、本校においては生徒理解の研修はすべての教職員に対して早急に必要でした。特別支援にはチーム力が必要です、数年間で大多数の教職員がニーズのある生徒への適切な声掛けや配慮が可能となりました。

特に授業における個への配慮は、生徒との関係づくりの上でも大切な場面です。現在も「わかる授業づくり」についてはすべての教職員の課題として取り組んでおります。

卒業後の進路保障では、当初から支援学校のノウハウに多くを学ばせていただきました。高校に在学しながら障害者手帳を取得する事例に、多くの教師が戸惑いを感じました。手帳取得の意味を理解すること、就労に福祉的なかわりを持つことは、それまでの進路指導とは大きく異なり、このことも経験のないことでした。個別の対応を重ねながらシステムの構築にかけた時間もはかり知れないものです。しかし、診断の有無、手帳の有無に固執することなく、個々の将来を見据え、本人の希望、保護者の願いに応じた、高校卒業者としての進路決定でなくてはなりません。

この3年間は文科省「個々の能力・才能を伸ばす高等学校における特別支援教育」事業の研究指定校として、教育課程の特別な編成により対象生徒に「自立活動」を行っております。

将来の就労を意識した個別の自立活動が、高校のインクルーシブ教育の中で、どう生かされるのか、平成30年度からは高校における通級指導教室設置が実施となります。長野県の動きは正式には公表されていませんが、高校における通級指導がどのように行われるのか本校を含め全国22校の取り組みの報告に期待されます。

長野県の中学校特別支援学級在籍生徒の実態から、多部・単位制高校や夜間定時制、地域高校だけでなく、あらゆる高校でニーズのある多くの生徒を受け入れています。

「高校入学までに小中学校において身につけておくことは何か？」とよく問われます。ニーズに沿った適切な支援を早期から受けることのできたお子さんは、高校入学後も学ぶ姿勢が整い、支援の継続が可能です。最大の目標が「高校入試合格」の学力偏重とならないよう、社会へつながるイメージを持って、必要なこと、できることを伸ばしてほしいと思います。

指定校の実践から貴重な学習の機会をいただきました。特に「自立活動」「インクルーシブ教育」につきましても、原点に立った思いです。高校に在学しているすべての生徒の学びを保証できますよう、今後とも連携をよろしくお願いいたします。

# □で言えれば漢字は書ける！

「部品の組み合わせ」および「漢字のタイトル」学習法（義務教育9年間をつなげた学習法）

道村 静江（点字学習を支援する会）

言語活動の基盤作りや学習全般において意欲的に取り組むためには、漢字習得は大切な要素である。

学習が苦手な子どもたちはまず漢字でつまずき、書くことや読むことへの抵抗感が生まれている。その子たちの意欲を喚起させ、やればできるようになるとの達成感をもたせて、自学自習の力と言葉の基礎力を培うことが、学習や言語活動の底上げにも通じると思われる。

特に漢字の読み書きに困難さをもつ児童・生徒には、書きの困難さから開放させてあげ、部品という画数の少ない部分を書けるようになれば、あとは組み合わせで漢字が書けるようになるという楽しさを実感させてあげることが適切だと思われる。カード形式の学習法、パズルのように組み合わせる学習法に、興味をもって継続的に取り組み、クリアしていている事例が多く報告されている。

横浜市立N小学校では平成21年度から、福井県の坂井市立T小学校でも平成24年度から、全校同一方式でこの漢字学習に取り組み始め、その習得状況の結果が出た。（その他の小学校でも学年や全校で取り組み始めたところがある。）そのデータを見ると、「高学年で漢字が難しくなって習得が悪くなる」と言われている従来の傾向を大きく変え、4年生以降の習得率が急激に上昇しているのがわかる。

これはこの漢字学習の特徴であり、この学習法を導入することによって、子どもたちは担任が替わっても慣れた学習法が毎年継続され、混乱がなくなる。また、保護者と共に学年進行に伴う学習の継続や見直しをもって家庭学習を進めることができるなどの利点もある。

横浜市立N小学校（3年間の変化）

	従来の学習法	部品の組み合わせ学習法		
		21年度	22年度	23年度
1年	92%	90%	89%	93%
2年	83%	89%	85%	80%
3年	<b>64%</b>	76%	85%	86%
4年	<b>58%</b>	71%	88%	88%
5年	<b>57%</b>	75%	87%	<b>91%</b>
6年	データなし	78%	81%	<b>92%</b>
全校	70.8%	79.8%	85.8%	88.3%

福井県坂井市立T小学校（1年間の変化）

	24年5月 (前学年)	24年9月 (1学期分)	25年3月 (全学年)	上昇率 (5月→3月)
	1年	—	—	97.4%
2年	94.1%	94.1%	95.9%	1.8%
3年	90.8%	86.9%	96.1%	5.3%
4年	82.1%	84.9%	<b>93.6%</b>	11.5%
5年	75.0%	83.0%	<b>95.4%</b>	<b>20.4%</b>
6年	75.6%	<b>90.1%</b>	<b>94.0%</b>	<b>18.4%</b>
全校	83.5%	87.8%	95.4%	11.9%

この学習方法は、「書いて覚える」従来の学習法から、視点を変えて「意味ある部品の組み合わせを唱えて覚える」方法を採用している。漢字のおもしろさと関連性を見出し、漢字本来の学習に近づけ、子どもたちの自ら学び習得していく力を養うことをねらいとした。それにより、低学年で培った力が高学年で活かされて、楽に習得されていくことが実証された。

さらには、中学校で学ぶ常用漢字1130字も、同様の学習法でつなげることができ、その教材も整った。義務教育9年間の見直しをもった学習を展開することが、個の力を継続的に伸ばすことにつながり、基礎学力の定着を図れるものと考えられる。

## 【道村式漢字指導法の紹介】

### ＜実態把握＞

まずは、実態把握をすることが肝要であり、そこからどのような対策を講じればよいのか、どんなサポートをしてよいのかなどが浮かび上がってくる。その実態把握は、単に書いたものだけを採点し、その間違いの様子を知るのではない。読み書きをしている時の様子から多くのことを知ることができる。

書きの実態把握	読みの実態把握
すぐに思い浮かんでいるか	どんな熟語でつまっているのか
熟語の音読みを言われて、すぐに思い浮かぶか	どんな読み間違いをしているのか
訓読みを言われてからやっと思い出しているのか	訓読みから音読みへの変換ができていないか
手本を何回も見て1字を完成させていないか	同音漢字の中から即座に選択しているか
最後まで一気に書き進めることができるか	よく目にする熟語をすらすら読めるか
部品の途中で迷っている様子があるか	訓読みから想像する意味だけを知って、正確な音読みを組み合わせたことができていないのではないか
組み合わせの時に時間がかかっていないか	読み方のつまり方や読み直し具合で、音訓読みの習得の様子や、語彙力の様子が分かる
突き出すか突き出さないかなどの細かい部分で、何となくごまかすような書き方をしていないか	
いくつかの組み合わせを書いて、見覚えのある字を選択していないか	
書く速さ、自信をもって濃い字で書いているか	

## <書くことに関する指導>

### 1. つまずきを見極める

- ①線構成で覚えようとしている。→ **線構成で覚えても、書けるようにはならない**  
手本を見ないと書けない。写し書きの時に首を左右に振って書いている。一字丸ごと続けて書けない。  
心の中で「たて、たて、よこ、ななめ」などとつぶやいているようだ。
- ②部品を正確に書けない。→ **画数の少ない部品だけを正確に形を整えて書く**  
線の過不足、突き出す・突き出ないなどの微妙な間違いが多い。
- ③全体像がイメージできていない。→ **全体の構成を口で言うことによって、思い浮かぶ**  
字のバランスが悪い、行からはみ出る。一気に書ききれない。構成の最初から最後まで思い浮かべていないから、配置が整わない。
- ④一字一字をあいまいに覚えている。→ **部品の組み合わせをすらすら言えるようにする**  
こんな感じの字だった、こんな部品が使われていた気がする、配置や向きなどの構成のあいまいさがあり、覚えている部品を勝手に組み合わせってしまう。

### 2. 部品の組み合わせ学習法

- ①部品の種類や名称を覚え、正確に書けるようにする。部品の中での書き順やはね・とめ・はらいをしっかり身につけさせる。(主に2年、3年前半)
- ②部品構成を知り、その組み合わせだけを言えれば、頭に漢字を思い浮かべていることになり、一気に書けるようになる。バランスのよい字が書ける。(主に3年後半、4年以降)
- ③画数の多い字も、上から下、左から右、左上から右下の順に部品の組み合わせで言えれば、その通りに書けるし、書き順もほとんど間違えない。例外の書き順だけ留意する(右、飛、必、衆など)。  
また、くにがまえ、しきがまえ、ほこがまえ、はこがまえ、ぎょうがまえの5つだけは、部品を完成させる途中に他の部品が入り込むことを知っておくと書き順を間違えない。
- ④間違えやすい漢字は、その使っている部品を正確に覚えて、違いを言葉で表して意識することで、微かな間違いが極端に減る。  
勝(月、ソニ、上に突き出す人、力)、券(ソニ、上に突き出す人、刀)、岸(いちじゅう)、喜(十、豆、口)官(うかんむり、たて棒、ココ)、宮(うかんむり、口ノ口)、得(ぎょうにんべん、日一寸)、達(土、羊、しんにょう)、幸(土、羊の一本なし)、辞(立十)、鉄(かねへん、うしなう)、青の上・昔の上・寒いの中  
ほこがまえ(戈)としきがまえ(弋)、しめすへん(ネ)ところもへん(ネ)、したみず(氷)、ふでづくり(聿)
- ⑤部品の関連性から、難しいと思える漢字も容易に書けるようになる。  
「機、械、議、観、察、極、験、象、焼、費、養、然、候、潔、樹、憲」
- ⑥部品の形を口で言うのがややこしいものもあるが、最初に登場した時に正確に書いて覚えれば、次からはその字の形であることを口で言えば間違えずに使える。  
家(フタ)→象像隊劇 年(年の下)→衛降 場(場の右)→湯陽腸傷  
長の下→帳張農展 衣の下→遠園表旅俵衆裏 したみず(氷)→求球救録録様康暴

### 3. どの学年にどんな部品がどれだけ登場するか

- (参考資料1 「部品が登場する学年」(基本漢字と初出部品 および 登場するカタカナの種類と形)  
(参考資料2 「同じ部品をもつ漢字」(太字以外にも多くの漢字 『常用漢字総索引集』からの抜粋)  
1年は基本漢字がほとんど。2年・3年で部品の多くが登場する。4年以降は極端に少なくなる。  
→ **漢字は部品でできている**

### 4. 漢字同士を関連づけて学習する

- ①低学年の時に、代表的な分かりやすい成り立ちを知り(漢字辞典などの解説を活用)、部品には意味があって組み合わせられていることがわかるようになる。(わかりやすいものだけで十分)
- ②漢字はおもしろいと思うようになり、他の漢字も何か意味があって組み合わせられているのではないかと興味をもつようになる。部品の関連性がわかり、漢字のもつ意味や成り立ちを知ることにつながる。
- ③部品に注目できるようになると、多くの字が芽づる式に結びつく。
- ④バラバラに覚えて混乱していた漢字がまとまり、覚えやすくなる。  
部品の関連性で、高学年の字も簡単に習得できるようになる。

### 5. 漢字カードを使って「部品の組み合わせ学習法」を習得

- ①漢字カードの表面の教科書体の大きな字を見て、その下に書かれている「部品の組み合わせ方」を何度も唱える。この言い方がこれで、こういう組み合わせ方をしているんだと、目に焼き付ける。
- ②表面を見ないで、または裏面の漢字のタイトルを見て、その字の「部品の組み合わせ方」を言う。
- ③言えるようになったら、書いてみる。書けたらOK。最初から書いて覚えようとしなない。
- ④間違った字は、あやしい字は、部品のところだけ確認する。または、部品だけ書く練習をする。

## <読むことに関する事項>

### 1. つまづきを見極める

(参考資料3 「音読みに関する情報」)

- ①音読みが即座に出てこない。→ **新出漢字の時に、音読み・訓読みをセットで覚える**  
3年生までの漢字は訓読みを習い、後の学年で音読みを習うケースが圧倒的に多い。すると、訓読みだけがインプットされて、音読みをマスターしにくい傾向にある。上の学年で新しい読み方が出てきても、それをていねいに指導する機会は少ない。
- ②音読みしかない字が増え、同音で混乱している。→ **熟語とセットで覚えれば、使い方がわかる**  
学年が上がるにつれて、音読みしかない漢字が多くなる。同音異義の漢字が増えてきて、訓読みに頼っていた読み方では対応できなくなる。
- ③音読み漢語が即座に読めない。→ **音訓セットで覚えておくと、音読みがすぐに浮かぶ**  
4年生以降になると、訓読みよりも音読み熟語が爆発的に増える。理科・社会などの教科書は漢語ばかりで、音読みをマスターしていないと教科書が読めない。
- ④音読み熟語を知らない。→ **代表的な音読み熟語をセットにして覚える**  
音読みだけしかない漢字は、熟語の区別で判断しなくてはいけない。区別を付けるべき熟語を教科書に載っているものしか知らなくて、その他の一般的な熟語を言われても何の漢字が当てはまるのかの判断が付かない。

### 2. 音訓読みセットで覚える(音読み習得の重要性) (参考資料4「漢字のタイトル一覧」)

- ①「漢字のタイトル」とは、音読みに熟語をセットにして、代表音訓を組み込んであるもので、これを覚えて言えば、絶対に間違えないで漢字を特定でき、同時に音読み・訓読みが習得できるというもの。
- ②習った字や書けるようになった字の未習学の読み方でも、読めるようになる喜びがある。小学校では、習う漢字には学年配当があるが、読み方の学年配当はないので、先に覚えた方が得で、多くの漢語が読めるようになる。
- ③音読みが即座に言えるようになる。  
漢字のタイトルを覚え、音読み・訓読みがセットで語呂合わせのように言えば、熟語を見た時に音読みが即座に出てきて読める。教科書が楽に読める。読書の時にとっても役立つ。

### 3. 漢字カードを使って「漢字のタイトル学習法」を習得

- ①漢字カードの裏面のタイトルを丸ごと覚える。低学年では難しい熟語がセットになっている場合もあるが、それは日本人なら誰でも知っている言葉で、上の学年で役に立つ。
- ②(中学校で習う読み方) <高校で習う読み方>で区別された音読みは、五十音順に並ぶ漢字表や辞書の索引を調べる時に役立つ。また、訓読みにこの印のものを付加しているのは、音読みだけよりも早く思い浮かび、理解しやすいからである。
- ③送り仮名は\_で区別してあるので、語調を変えたり強調したりすると覚えやすい。
- ④裏面の下の段(3年以降)は、既習の同音漢字。それらを常に目に留め、同音漢字を思い出して、選択できるようにしておくと、多くの漢字が使えるようになる。

## <各学年の学習課題と指導ポイント>

### <1年生>

- ①漢字のスタートは、カタカナ。
- ②カタカナを漢字学習の前にしっかりと書けるようにする。
- ③カタカナが組み合わさって漢字が構成されていることを知る。
- ④カタカナと習った漢字の組み合わせで覚えると便利であることを知る。
- ⑤基本の部品の書き順、とめ・はね・はらいなどを正確に書けるようにする。
- ⑥漢字には成り立ちがあることを知り、漢字はおもしろいと感じる。
- ⑦1年生の漢字は半分が基本漢字なので、ていねいに正確に書けるようにする。
- ⑧音訓読みを含んだ「漢字のタイトル」を暗誦するくせをつける。

### <2年生>

- ①部品がどんどん登場するので、その名前を覚え、一つ一つを正確に書けるようにする。
- ②部品の微妙な違いや注意を払うところを、ていねいに確認する。
- ③書き順は、部品を正確に書ければ、構成の多い漢字でも正確に書けることがわかる。
- ④部品のもつ意味や成り立ちを知り、漢字のおもしろさがますます実感できる。
- ⑤160字ある漢字も、組み合わせでできていくことを実感する。
- ⑥部品の組み合わせで覚えると、漢字同士の関連性に気付いて、意味や使い分けに注意するようになる。
- ⑦漢字カードで、字体を部品で言い、タイトルをすらすら言えるようにすることを習慣づける。

## <3年生>

- ①3年生前半までにほとんどの部品が登場するので、部品の名称を覚えて、書き順通り正確に書けるようにする。
- ②同音の漢字がさらに増え、訓読みがない字も増えてくるので、熟語セットのタイトルを暗唱する。
- ③同音漢字を区別するためには、その代表的な熟語を知って、すぐに思い出せるようにする。
- ④生活によく使われる200字なので、教科書の熟語だけではなく、音読みの熟語を増やし、使える言葉を増やす。

## <4年生>

- ①ほとんどが既習漢字で使われた部品の組み合わせであり、簡単に書けることを実感させる。
- ②3年生で使われる部品がたくさん登場し、同じ部品をもつ漢字が爆発的に増え、似た字で混乱してくる。それらを関連づけるようにする。
- ③同音の漢字が爆発的に増え、その区別のための復習も必要になる。漢字がもつ意味に注目させ、使い分けができるようにする。
- ④抽象的な意味をもつ漢字が増えてくる。事物を表していないので、どの場面で使用していいのかわかりにくい。また、4年生以降になると微妙な使い分けも必要になる。使い方や使う場面を確認する。
- ⑤常用漢字など難しいと思われる漢字も、部品に分解すればすべて書けることがわかり、習っていない字も使おうとする意欲をサポートする。

## <5年生、6年生>

- ①ほとんどが既習漢字の組み合わせで、「部品の組み合わせ」で楽にクリアできる。
- ②部品による関連性をもたせ、意味や使い方の違いを気づかせる。
- ③音訓読み・熟語を含む「漢字のタイトル」の学習法が身につけていけば、同音漢字の区別がつく。
- ④ほとんどの音読みを習うので、音読みと訓読みの読み替えや使い分けが即座にできる。
- ⑤高学年は、語彙を増やすことを目指す。
- ⑥新出漢字だけの学習から、既習漢字を常に使うように意識づける。
- ⑦高学年の漢字も難しくないことが実感できる。大人用の読書ができる。

## <そして、中学校1130字へ>

- ①全ての常用漢字に、部品の組み合わせ学習法が当てはまる。
- ②中学校で登場する新たな部品はごくわずかである。
- ③同じ部品をもつ漢字が同音やよく似た意味をもつことでつながる。
- ④難しく覚えて覚えるのが大変だと思われる常用漢字に対して、書くこと・読むこと・理解することが容易になる。

参考図書（点字学習を支援する会 HP参照 <http://tenji-sien.net>）

『視覚障害者の漢字学習』小学校1年～6年の各学年

『視覚障害者の漢字学習』中学校編（1130字）

『常用漢字総索引集（2136字）』漢字のタイトル一覧、同じ部品をもつ漢字一覧

『道村式漢字カード・小学校編』 『道村式漢字カード・中学校編』

『口で言えれば漢字は書ける！』～盲学校から発信した学習法～ 小学館 発行（電子書籍）

平成26、27年度、伊那市では、学習のつまずきに伴う2次的な障がいを予防するために、すべての教科に必要とされる基礎的な読み書き能力に着目し、その早期発見・支援体制のあり方について文科省の「発達障がいの可能性のある児童生徒に対する早期発見支援研究事業」として研究をすすめてきました。その取り組み中で出会ったのが、この『道村式漢字学習法』です。「これは、いける！」というのが実践して素直に感じたことなので、この場で紹介させてもらいました。今年度も道村先生をお招きして下記の日程で研修会が開催されます。興味をもたれた方は、是非ご参加下さい。

- 1, 期日・会場 平成28年 8月 2日 火曜日 伊那市役所 501・502会議室
- 2, 日程・概要 9:30～12:00 道村先生による道村式漢字学習法 基礎・基本編  
13:00～15:30 研究事業報告・道村先生による道村式漢字学習法 実践編
- 3, 申し込み方法 伊那市内の方は、市からの案内に沿って申し込みをして下さい。  
市外の方は、7月22日（金）までに 伊那北小学校 塩入宛にFAXで申し込んで下さい。 FAX:0265-72-6029

# 上伊那教育会ホームページの活用について

伊那養護学校 金澤宏一郎

## ① 上伊那教育会のホームページを開きます



## ② 『教科部』 → 『特別支援教育委員会』を開きます



## ③ ページにアクセス成功!!



特別支援教育委員会の活動報告（教育課程研究協議会やなかよし作品展等）のほかにも、上伊那圏域特別支援教育連携協議会の研修案内なども紹介していく予定です。ご参照ください。

# お知らせ

## 【教育課程研究協議会について】

今年度は10月12日 水曜日に伊那養護学校と手良小学校の2会場で開催されます。各会場ごと、以下の内容で準備が進められています。

伊那養護学校	<p><b>研究テーマ</b> お金(数)に関する学習に、自分から自分で精いっぱい取り組み、お金(数)の教え方や実生活での買い物など、個に応じた力を培う指導のあり方はどうあったらよいか ～個別学習の時間における「個別の学習」「ドリル学習」「金銭講座学習」を通して～</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・公開のメインは中学部になりますが、小学部・高等部の参観も設定されています。</li><li>・研修会は、県教委からの情報提供の他 辰野高校の中川北斗先生より「高等学校における特別支援教育」についてお話していただく予定になっています。</li></ul>
手良小学校	<p><b>研究テーマ</b> どの子ども「わかる」「できる」喜びを感じ、「もっとやりたい」という意欲を持てる授業にするための支援のあり方はどうあったらよいか ～授業のユニバーサルデザイン化を通して～</p> <p>午後の研修会は、県教委からの情報提供の他 以下の内容で行う予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今年度より新スタッフとなった『きらりあ』療育コーディネーター丸山さん及び発達障がいサポートマネージャー松田さんの紹介および『きらりあ』の事業説明。</li><li>・「行政にできること」として伊那市教育委員会 学校教育課子ども相談係 係長の中村さんにお話をしていただく予定になっています。</li></ul>

## 【上伊那圏域連携サポート会議について】

今年度は、7月30日(土)に伊那養護学校で開催されます。

顔でつながり、より強固な連携を目指す場となっています。また、関係者相互の連携のあり方、圏域の課題の把握、解決の道筋を探るための重要な会でもあります。是非、参加していただけたらと思います。

概要は以下の通りです。

午前 9:00受付	<p><b>全体会 テーマ～上伊那圏域の関係機関の連携の方向性を考える～</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>(1)上伊那圏域での連携に望むこと～各分野からの発信～</li><li>(2)講演会 福岡 寿 先生 「特別支援を必要とする子どもを支える地域連携のあり方(仮題)」</li></ul>
午後 終了 14:50	<p><b>地区サテライト会(北部・中部・南部地区に分かれて)</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地区ごとの保育・教育・医療・福祉・保健・行政等の参加者間での地域情報の共有や事例を通しての研修会</li></ul>

※すでに開催通知及び申し込み票は送付されているとは思いますが、お手元がない際は以下の窓口  
に直接申し込んでいただけたらと思います。(午前のみ、午後のみでもかまいません。)大勢のご参加  
をお待ちしております。

### 上伊那圏域特別支援教育連携協議会

サポート会議担当 : 渡辺孝次・福島徹・小松共一

伊那養護学校 総合支援室

TEL: 0265-72-2895 FAX: 0265-76-9095

Mail: inayo55@nagano-c.ed.jp